

2019年（令和元年） 9月6日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

8/22~8/28のNYMEX・WTIは、53.64~55.78ドルの範囲で推移した。

8月29日は、前日の米国原油在庫の減少や最近の米中の歩み寄り姿勢を好感した買いが広がり、3日続伸した。10月限終値は、前日比0.93ドル高の56.71ドル。

週末30日は、ドル高・ユーロ安に伴う原油先物の割高感、月末・週末のポジション調整、根強い世界経済の先行き懸念から、売りが広がり、4日ぶりに反落した。ペーカーヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は、742基で前週比12基減、2週連続の減少だった。10月限終値は前日比1.61ドル安の55.10ドル。

2日は、レイバーデー（勤労感謝の日）につき休場。

連休明け3日は、1日に米国は対中制裁関税第4弾を発動、中国も即時報復関税で対抗したことから、米中関係の更なる悪化への懸念から、続落した。OPECプラスの8月産油量が増加したとの報道も、下げ要因となった。10月限終値は、前週末比1.16ドル安の53.94ドル。

4日は、中国の8月のサービス業景況指数(PMI)の改善、ドル安・ユーロ高の進行による原油先物の割安感、イランの原油販売ネットワークの個人・団体に対する制裁対象の追加指定などを材料に買いが広がり、大幅に反発した。10月限の終値は前日比2.32ドル高

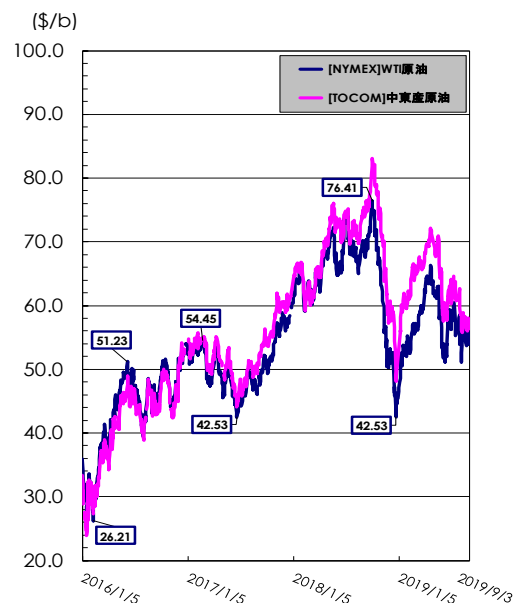
の56.26ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(10月渡し)は8月22日~28日の間58.30~60.00ドルの範囲で推移した。8月29日59.00ドル、30日59.50ドル、9月2日57.90ドル、3日57.20ドル、4日57.00ドルで推移した。

為替は8月22日~28日の間105.08~106.66円の範囲で推移した。8月29日106.03円、30日106.46円、9月2日106.14円、3日106.33円、4日105.93円で推移した。

そのような中で、9月2日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値下がり、軽油は同0.2円の値下がり、灯油は同2円の値下がり(18㍓ベース)だった。ガソリンは6週連続の値下がり、軽油は5週連続の値下がり、灯油は4週連続の値下がりだった。この週(9月第1週)の原油コストは値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の値下げとなった。

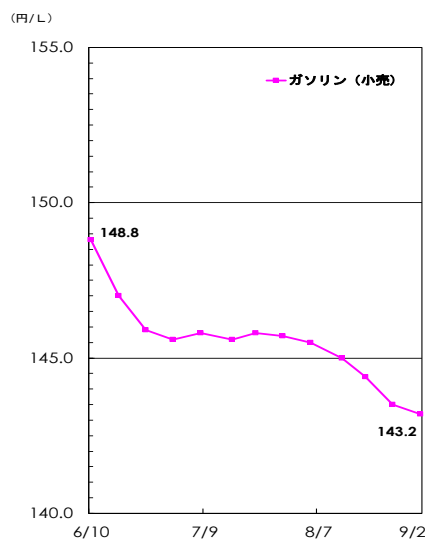
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/25 ~ 8/31	3,668 ▲ 258	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	93.7 ▲ 6.6	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	8/31	12,821 ▲ 23	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	9/2	56.70 ▲ 0.44	▼ -18.0
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	9/3	53.94 ▲ 0.30	▼ -15.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月上旬	66.97 ▲ 1.00	▼ -9.99
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	45,533 ▲ 604	▼ -8,357
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	108.09 ▲ 0.20	▲ 3.24
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/2	107.14 ▼ -1.06	▲ 4.85



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/25 ~ 8/31	943 ▼ -101	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	850 ▼ -58	▼ -	
	輸出	"	38 ▼ -20	▲ -	
	在庫	8/31	1,551 ▲ 56	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/27 ~ 9/2	56.5 ▲ 1.0	▼ -11.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/27 ~ 9/2	51.3 ▼ -0.2	▼ -14.9
		(TOCOM/中部)	9/2	53.5 ➡ 0.0	▼ -13.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/2	143.2 ▼ -0.3	▼ -8.9	

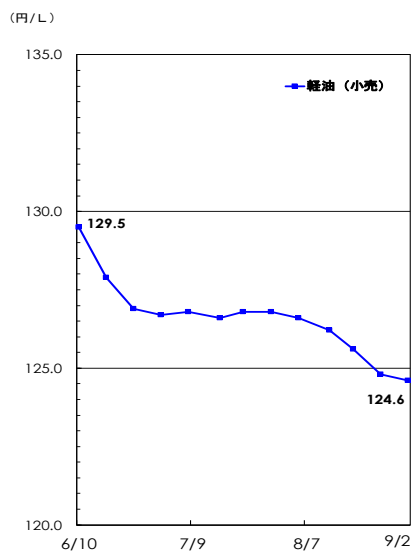
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

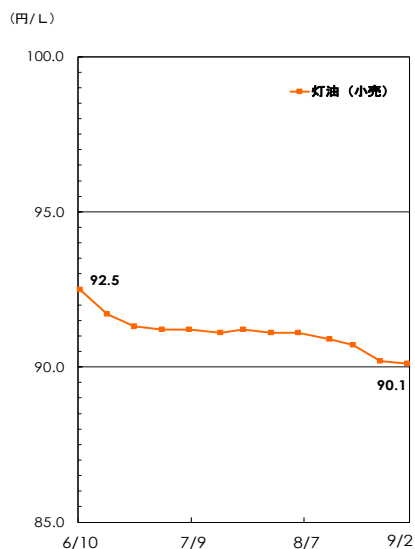
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/25 ~ 8/31	802 ▼ -115	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	621 ▼ -105	▲ -	
	輸出	"	206 ▼ -68	▼ -	
	在庫	8/31	1,680 ▼ -25	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/27 ~ 9/2	58.5 ▲ 0.5	▼ -10.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/27 ~ 9/2	59.6 ▼ -0.4	▼ -9.2
		(TOCOM/中部)	9/2	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/2	124.6 ▼ -0.2	▼ -6.2	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/25 ~ 8/31	198 ▲ 27	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	66 ▼ -60	▼ -	
	輸出	"	39 ▲ 39	▲ -	
	在庫	8/31	2,350 ▲ 93	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/27 ~ 9/2	58.2 ▲ 0.7	▼ -10.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/27 ~ 9/2	55.5 ▲ 0.4	▼ -14.0
		(TOCOM/中部)	9/2	56.0 ➡ 0.0	▼ -14.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/2	90.1 ▼ -0.1	▼ -3.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

9月4日のNYMEX市場WTI原油は、中国の8月のサービス業景況指数(PMI)の改善、ドル安・ユーロ高の進行による原油先物の割安感、イランの原油販売ネットワークの個人・団体に対する制裁対象の追加指定などを材料に買いが広がり、大幅に反発した。なお、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報は連休のため発表は1日遅れで、原油在庫の市場予想は、前週比250万バレルの減少。10月限の終値は前日

比2.32ドル高の56.26ドル、11月限の終値は前日比2.34ドル高の56.10ドル。

EIAによると、9月2日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.1セント値下がり1ガロン2.563ドル(70.8円/ℓ)、ディーゼルは同0.7セント値下がり2.976ドル(82.2円/ℓ)となった。ガソリンは7週連続の値下がり、ディーゼルは8週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年8月25日～8月31日に休止したトッパー能力は10.0万バレル/日で、前週に対して4.3万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は366.8万klと、前週に比べ25.8万kl増加。前年に対しては8.0万klの増加。トッパー稼働率は93.7%と前週に対して6.6ポイントの増加、前年に対しては2.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/9.7%減、ジェット/2.4%増、灯油/16.1%増、軽油/12.6%減、A重油/21.1%減、C重油/5.4%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は20.6万kl(前週比6.8万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェットが増加となり、その他の油種で減少となった。前年比では軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は85.0万 kl(対前週6.4%減)と2週連続で

減少となり、2週連続で100万klを下回った。ジェット9.1万kl(対前週28.4%増)、灯油6.6万kl(対前週47.5%減)、軽油62.1万kl(対前週14.5%減)、A重油17.2万kl(対前週16.3%減)、C重油13.8万kl(対前週30.4%減)。

(単位：千KL)

	今週 (8/25 ~ 8/31)	前週 (8/18 ~ 8/24)	前週比
ガソリン	850	908	▼ -58 (-6%)
ジェット燃料	91	71	▲ 20 (28%)
灯油	66	126	▼ -60 (-48%)
軽油	621	726	▼ -105 (-14%)
A重油	172	206	▼ -34 (-17%)
C重油	138	198	▼ -60 (-30%)
合計	1,938	2,235	▼ -297 (-13%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月31日時点の在庫は、軽油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、灯油、軽油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは155.1万kl、前週差5.6万kl増。前年に対しては1.6万kl少ない。

灯油は235.0万kl、前週差9.3万kl増。前年に対しては13.2万kl多い。

軽油は168.0万kl、前週差2.5万kl減。前年に対しては10.6万kl多い。

A重油は71.8万kl、前週差2.4万kl増。前年に対しては1.8万kl少ない。

C重油は189.1万kl、前週差2.1万kl増。前年に対しては14.3万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (8/31)	前週 (8/24)	前週比
ガソリン	1,551	1,495	▲ 56 (4%)
ジェット燃料	925	914	▲ 11 (1%)
灯油	2,350	2,257	▲ 93 (4%)
軽油	1,680	1,705	▼ -25 (-1%)
A重油	718	694	▲ 24 (3%)
C重油	1,891	1,870	▲ 21 (1%)
合計	9,115	8,935	▲ 180 (2.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月27日～9月2日の原油価格は、前週比で値下がりし、為替レートもわずかに円高で、原油コストは値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、8月27日～9月2日の間、ガソリン109～110円台で値上がり、軽油58円台で値上がり、灯油57～58円台で値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン111円台で値上がり、軽油60円台で値下がり、灯油52～54円

台で値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン104～105円台で値上がり後やや値下がり、軽油59円台で値下がり、灯油54～56円台で大きく値上がり後値下がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社0.5円の値下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

8月27日～9月2日の製品スポット市況は、8月20日～26日平均と比べ、先物・ガソリン、海上と先物の軽油を除いて、他の取引で値上がりした。

直近の陸上スポット価格(8/27～9/2千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは1.0円の値上がり、灯油は0.7円の値上がり、軽油は0.5円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.5円の値上がり、灯油は0.5円の値上がり、軽油は0.2円の値下がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが0.2円の値下がり、灯油は0.4円の値上がり、軽油は0.4円の値下がりだった。

9月第2週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の値下げとなった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (8/27～9/2)	前週 (8/20～8/26)	前週比
スポット価格	レギュラー	56.5	55.5	▲ 1.0
	灯油	58.2	57.5	▲ 0.7
	軽油	58.5	58.0	▲ 0.5
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (8/27～9/2)	前週 (8/20～8/26)	前週比
先物価格	レギュラー	51.3	51.5	▼ -0.2
	灯油	55.5	55.1	▲ 0.4
	軽油	59.6	60.0	▼ -0.4

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/27～9/2実績値)				(単位: 円/%)		
油種	現物	先物	平均			
ガソリン	▲ 1.0	▼ -0.2	▲ 0.4			
灯油	▲ 0.7	▲ 0.4	▲ 0.6			
軽油	▲ 0.5	▼ -0.4	▲ 0.1			
A重油	▲ 0.7					

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

9月2日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円安の143.2円、軽油も同0.2円安の124.6円、灯油は18%ベースで同2円安の162.2円(1%ベースでは同0.1円安の90.1円)。ガソリンは6週連続の値下がり、軽油は5週連続の値下がり、灯油は4週連続の値下がり。都道府県別には、値上がりが6道県、横ばいが5県、値下がり36都府県。全国最安値は滋賀県の137.2円(前週比0.5円安)、その次は、埼玉県の137.5円(同横ばい)、最高値は長崎県の154.4円(同1.0円安)。最も値上がりしたのは1.1円高の熊本県(146.7

円)と北海道(142.2円)、最も値下がりしたのは1.9円安の佐賀県(147.5円)。

先週の原油コストは値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円～1.0円の値上げに分かれた。今週は、原油価格は値下がりし、為替レートもわずかに円高で、原油コストは値下がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の値下げとなった。次週(9月9日)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がり予想される。

(資工庁公表) [週動向]		今週 (9/2)	前週 (8/26)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	143.2	143.5	▼ -0.3	08/8/4 185.1
	灯油	90.1	90.2	▼ -0.1	08/8/11 132.1
	軽油	124.6	124.8	▼ -0.2	08/8/4 167.4

(単位: 円/%)

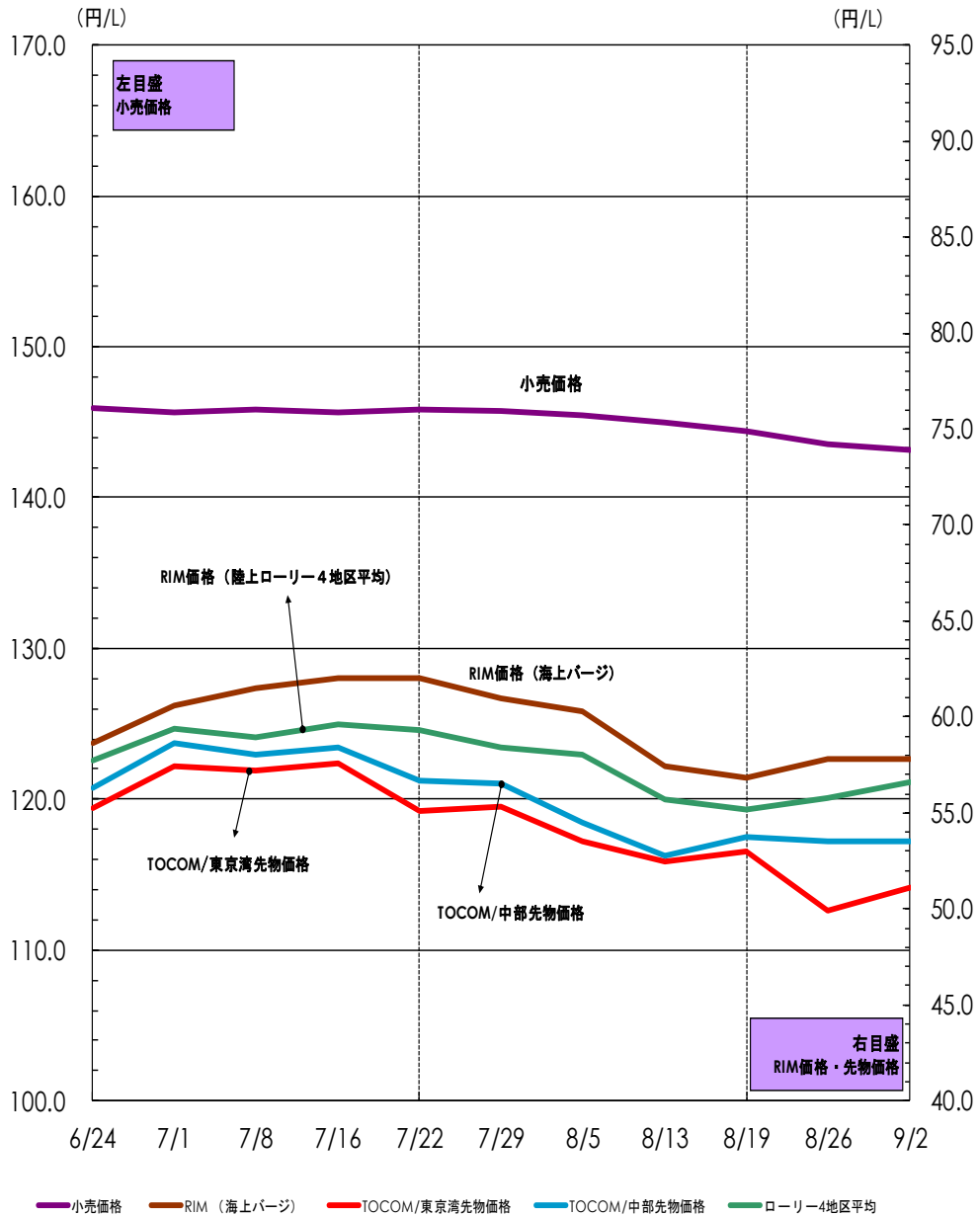
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/6/24 ~ 2019/9/2)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第22号)の公表は、9/13(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成31年3月末現在)は、7月31日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。